

令和元年 5 月区政会議部会（概要）

■令和元年 5 月 27 日 まちづくり部会

①「経営課題 1 人と人がつながり、城東区を誇りに思えるコミュニティ豊かなまちに」について

〔主な意見〕

- ・具体的取組 1-1-2,1-2-2 など、参加者数の目標設定が低いのではないかと。参加者数が一定達成しているのであれば、全 16 地域の参加率を出して、結果、地域によってばらつきがあれば対策を講じる方がよいのではないかと。
- ・地域の催しを実施しているが、中間支援組織の存在がとても重要。 等

〔区の考え方〕

- ・目標設定については、特に音楽事業に関しては会場のキャパシティ等を考慮したうえで設定しておりますので、設定が特段低いとは考えておりません。地域の把握については、アンケート用紙のスペースや参加者への負担増、参加者が自身の地域を把握していないケースも多い等の問題があり、現時点での対応は困難と考えます。
- ・地域の活動は地域で主体的に実施していただくことが基本ではありますが、そこに、まちづくりセンターが有している知識、経験、ボランティア市民活動センターとの調整などを連携させることで、活動をより充実させていくことは、非常に重要であると考えています。

②「経営課題 2 地域で支えあう安全で安心なまちに」について

〔主な意見〕

- ・防災訓練において、若年層と同様に、障がい者や高齢者の参加率向上を考えて欲しい。
- ・戦略 2-2 の評価は、アンケートによる区民意識の増加を評価の指標にしているが、犯罪発生件数を評価指標にするべきではないかと。 等

〔区の考え方〕

- ・地域の訓練において、可能な範囲で、要援護者支援という視点も取り入れていただければと考えると、区役所としても、職員の訓練に取り入れることができるか等を検討するとともに、要援護者の方自身にお願いしたい心掛けや準備などの周知広報を検討してまいります。
- ・防犯対策の成果指標については、街頭犯罪発生件数の増減と啓発活動の因果関係を読み取ることが不可能なため、区民意識の増加を指標としていますが、客観的で分かりやすい指標がないか、今後も検討していきます。

③「経営課題 5 区民の皆さんに信頼される区役所づくり」について

〔主な意見〕

- ・窓口サービスの評価について、来庁者の評価と格付けの評価で差があることについて、原因究明が必要。5 S の考え方の徹底が必要で、整理整頓が出来ていないのが目につく。 等

〔区の考え方〕

- ・窓口の評価は接遇のことだけではなく、庁舎の状況も評価項目となっており、ダンボールを積まれていることなど、5S が十分できていないというところは分析しています。区としても 5S の徹底や接遇の底上げも図りながら、区民のみなさんに気持ち良くきていただける区役所にしたいと思えます。

※その他の部会意見

- 子どもの見守り活動、通学路の安全対策 等

■令和元年5月28日 地域福祉部会

①「戦略4-1 高齢者、障がい者、子どもを地域が互いに見守り、支えあうまちへ」について

〔主な意見〕

- ・要援護者について、対象者を把握するというのが非常に大きな問題。また、名簿があっても、動いてくれる人たちが知らなかったら意味が無い。医療機関も地域を把握しているので、災害時に支援が必要だと思う人に連絡を入れてもらうよう依頼して、重層的に支援していく体制ができれば良いのではないかと。
- ・民生委員として、要援護者の名簿をもらっているが、本当に支援が必要な人が載っていない。
- ・高齢者が高齢者を見るということも難しいので、若い人に一緒に来ていただける人を色々探しているが難しい。障がいの方で親が高齢の場合、本当に訓練を受けているような方々でないと助けに行けない。

〔区の考え方〕

- ・いざという時に支援が必要な方を把握するには、普段からの細かい情報収集が必要であると考えており、特にこれまで声をあげておられない方にいかに声をあげていただくかということが今後の課題であると考えています。ご指摘のように、医療機関をはじめ、地域の社会資源からの情報収集も行いながら、災害時に支援が必要な方の把握を進めてまいりたいと考えております。
- ・支援が必要であるにもかかわらず名簿に掲載することに対し同意が得られていない方への働きかけにつきましては、城東区はもとより、他区の先進事例等も研究しながら、粘り強く進めてまいりたいと考えています。
- ・また、災害時の支援について、支援が必要な方がどのような状態になるのかを想定し、適切な支援ができる体制づくりについても検討していきたいと考えています。

②「戦略4-2 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるまちへ」について

〔主な意見〕

- ・医師とケアマネの連携を目標にしているが、医師だけではなく色々な方との連携がまだまだ不十分。在宅介護は体力的、精神的、金銭的にも大変で、ある程度進むとすぐに施設に入ってしまう。
- ・家族にとって看取りの何が問題なのかということをしかりと把握して、その辺もサポートできるよう、行政や対応者も勉強していかないといけない。

〔区の考え方〕

- ・「看取り」についての問題点について、専門的な観点から家族を支援する仕組みづくりが必要であると考えています。
- ・また、「看取り」についてはその個人のみならず、当該家庭にとっても様々な問題が出ることも想定されるため、職種を超えた連携、取り組みがスムーズに行えるよう、多職種研修会等により情報の共有や検討を図っていきたいと考えています。

※ その他の部会意見

- ・避難情報の簡素化、将来を見据えた支援体制 等

■令和元年5月31日 こども・教育部会

①「戦略3-1 子育て世帯が安心して、生み育て、働くことができるまちへ」について

〔主な意見〕

- ・城東区でこどもを育てたいと思う数値が20%落ちたとのことだが、その理由がわかるといい。イベント等に参加されない方の掘り起こしが原因であると考えたほうがいいのではないかと。学校のアンケートのように、選択肢を選んだ理由を書いてもらえば理由がわかるのではないかと。
- ・区民アンケートは、多人数の方にアンケートをとるべきで、返ってきている数字も少ない。少なくとも半分以上が返ってくるような取組にしないといけないと思う。等

〔区の考え方〕

- ・アンケートの結果が20%落ちている点については「思う」に続く選択肢が「ある程度思う」ということで、非常に感覚的なニュアンスで表現されていることもあり、具体的な分析はできていません。しかしながら、双方を合わせた数値は、前年度と同様に90%を超えていることから、基本的には評価いただいていると考えている。今後は、事業参加者からの意見も聴取するとともに、アンケート内容にも工夫を加え、次に活かせるアンケートにしてまいりたい。
- ・区民アンケートの対象者数につきましては、一般的に国などが行っている標本調査では、信頼水準95%として調査の設計をされており、その場合のサンプル数が400弱必要であることを参考とし、回収率を30%程度と想定して1,500人としております。今後も少しでも多くの方にアンケートに回答いただけるよう、実施方法等を工夫してまいります。

②「戦略3-2 子どもたちが自らの可能性を追求できるまちづくり」について

〔主な意見〕

- ・体育用備品について、学校のニーズは窓口になる校長が状況を一番よくわかっていると思うので、選択の余地を現場に預けるような取り組みをしてほしい。
- ・不登校生徒の居場所づくりや、不登校傾向の生徒への支援について、学習面だけでなく心理的にも支援するということは賛成である。ただ場所は地域に近いところが、ずっと入りやすい。民間やNPO含めて使われてはどうかと思う。等

〔区の考え方〕

- ・体育用備品については、平成30年度は歴史的にも城東区とかかわりの深い相撲にスポットをあてたところですが、今後の展開については、校長会等を通して現場の意見を十分に踏まえたうえで進めてまいりたいと考えています。
- ・不登校児童生徒の居場所づくりや、心理的支援、学習面の支援については、事業開始時から複数のNPO等と支援内容を構築しながら進めてきました。この間、民間の事業者のノウハウも活用し、現在では当該児童生徒の状況に応じて、区とNPO・民間事業者が情報共有し適切な支援を行えるよう調整しています。

※その他の部会意見

ひきこもり児童の保護者のケア、はぐくみネット 等